

## 平成28年度社会貢献・連携活動の概要

### 【西九州大学】

平成28年度は「地域大学宣言」を発出し3年目の年であった。大学のミッションを「地域と共に歩む大学」とし、このミッションを具現化する目標として「地域人材育成」を掲げ、今年度も各種取組みを行ってきた。ここでいう「地域人材」とは、自立的・主体的な学修意欲を備え、専門職業人としての知識・能力を身につけるとともに、地域が有する多様な課題に対して積極的にコミットする意志をもった人材である。この人材育成のために、全学部で初年次より正課科目でサービスラーニングを必修とし、地域社会に対する親和性を涵養している。さらに、2年次以降の正課科目（専門教育科目）も地域志向化し、教室内のアクティブラーニングにとどまらず、実際に地域社会にでかけ、現実の課題と向き合うフィールド型、課題解決型のアクティブラーニングをおこなっている。本学はこのような方法で教育活動の過程および帰結を地域貢献活動・連携活動へと繋いでいる。

平成25年度より始めた、佐賀大学との共同申請事業、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト）（以下、コミュキャン佐賀という。）」も順調に進捗した。この事業により、専門教育正課科目の地域志向化がさらに促進された。従来「あすなろ体験」として実践教養科目群で行っていたサービスラーニングにつき、専門教育科目や研究の多くが地域志向化され、「地域と共に歩む大学」を具現化するカリキュラムや研究が全学的に進行中である。尚、コミュキャン佐賀において実施されているプログラムとしては、「介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム」「保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム」「街なかサポーター活動を通じた安心生活づくり」「産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト」「地域住民と連携した交通ユニバーサルデザインプロジェクト」などが挙げられる。活動の認知度も向上し、自治体や企業等からの新規オファーも増加している。

また、平成28年度より佐賀大学主幹の文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）『さが地方創生人材育成・活用プロジェクト』」にCOC+参加校として加入した。この事業には、地元就職率1割向上という明確な数値目標が設定されており、その方策として、佐賀県内での中長期実践型を含むインターンシップの普及・促進に取り組んでいる。具体的には、佐賀県内におけるインターンシップ実施数の拡大および質的充実を目指し、地元企業・団体等に向けたインターンシップ勉強会を佐賀市・小城市で開催した。インターンシップの現状理解や佐賀地域では馴染みの薄い実践型インターンシップについて、プログラム開発の初歩を受入側とともに勉強するもので、佐賀県内の企業・団体14社から参加いただいた。本会の成果としては、まちなか活性化に関する課題解決に向けたプログラム、イベントの企画運営に携わるプログラム、空き家の活用方法を提案するプログラム、と3件の中長期実践型プログラムを開発し、計12名の学生が取り組んだ。今後も勉強会等を通じて県内全域に多種多様なインターンシップを普及させ、学生の積極的な参加を促し、実社会に通じる実践力と佐賀に対するシビックプライドを持った「さがの未来を創る」人材育成を進めていく。

従前の取組みである「あすなろう体験Ⅰ～Ⅲ」も継続して実施している。あすなろう体験Ⅰは、1年次必修科目であり、平成28年度は全学的取り組みとなって6年目を迎え、サービスマーケティングとして施設や祭りのボランティアなどの学外活動に、358件（のべ2,688名）の参加を実現するに至った（学生一人当たり8回以上の参加数である）。あすなろう体験Ⅱにおいては、中長期実践型のインターンシップを企画し、6週間（春休み）のインターンシップを実現することができた。この取組は、産業界GPテーマBで福岡県立大学・福岡工業大学・九州インターンシップ推進協議会と連携して得た成果を佐賀県で実施したものであり、中長期実践型インターンシップをプログラム開発から実施まで、本学コーディネーターが一から関わり実施した初めての事例となる。また、その事例をとおして、インターンシップの高度化に取り組み、評価ルーブリックの設計も着手した。あすなろう体験Ⅲにおいては、地域イベントへの参画を始め、商品開発に取り組んでおり様々な成果を上げている。（詳細は、地域連携センターホームページを参照）

県内5つの高等教育機関および放送大学と連携している大学間連携共同教育推進事業（平成24年度GP事業）では、発達障害のある子どもや、多様な課題を抱える子どもに対する支援として「大学間発達障害支援ネットワークの構築と幼保専門職業人の養成」に取り組んでおり、発達障害のある幼児に対する確かな支援力をもつ幼稚園教諭と保育士（＝幼保専門職業人）の養成に関し、「子ども発達支援士」146名の輩出という成果を上げることができた。

産官学連携活動としては、包括連携協定を結んだ各市町のうち、小城市との連携で新しい展開が生まれた。平成28年4月に小城市まちなか市民交流プラザ「ゆめぷらっと小城」内に、本学サテライトキャンパスを開所した。利用者は4,475名にのぼった。今後各自治体以外の多様なステークホルダーとも連携・協力協定を取り交し、佐賀県における地域課題解決、現場に密着した学修フィールドの確保等を図っていく予定である。

平成23年度から継続しておこなっている震災支援活動として、佐賀県内に避難してこられた親子を対象に“ほっ”とリラックスして過ごして頂けるような場の提供を行う事業「ほっとひろば西九大」も継続実施している。本活動は平成23年6月から始まり、平成29年3月4日で通算156回目の開催を迎え、延べ579組1,560名（28世帯）の方々にご参加いただいた。平成29年度も継続実施の予定である。

子ども学部では、短期大学部幼児保育学科と共に佐賀県における子育て環境の向上を目的に「子ども研究ネットワーク」を組織し、「親子いきいき広場（短期大学部幼児保育学科）」、「子どもミュージアム」、「子どもフェスタ」などのイベント開催をとおし、28年度のべ506人の子ども及びその保護者たちに参加いただいている。また、臨床心理相談室事業では、不登校や発達障害児への心理相談に加え、地域性を生かした子育て支援など臨床心理に関する社会ニーズに応え、28年度相談件数は延べ254件となっている。

食育による地域連携では、学内の「食育サポートセンター」を拠点とし、学生食育ボランティア「あすなろ隊」の派遣や食育推進リーダーの養成、食育推進プログラムの開発などをおこなっている。平成28年度は、21回、61名の学生が、鳥栖工業高校（定時制）の生徒を対象に「バランスの良い食事内容、水分の摂り方」などについて本学教員の指導の下、食育講話を行うなど、

食育支援活動を展開し、地域への食育推進に貢献した。

健康福祉・生涯学習センターでは、地域に開かれた学校をめざし、「公開講座」や「生きがいつくり教室」を開講している。公開講座は、西九州大学グループが保持するさまざまな教育・研究資源を活用し、28年度54回開講し、990名の方にご参加いただいた。また、生きがいつくり教室では、仲間と学生とのふれあいの場となる「生きがいつくり教室」を開講し、のべ676名の方にご参加いただいた。

その他、地域への大学開放の取り組みとして、「チャレンジ幸齢セミナー」「にこにこふれ愛デイ」「学校訓練会」を開催している。チャレンジ幸齢セミナーでは、地域の高齢者を対象に、大学版のデイサービスとして、本学の教員及び学生が創意工夫のもと、レクリエーションや調理実習、小城サテライト教室へバスで移動して簡単クッキング、ダンス体操とレクリエーションなどの活動などの活動を行い、のべ133名の方にご参加頂いた。他にも、地域の高齢者を対象とした取り組みとして、にこにこふれ愛デイがある。学園祭に43名の高齢者をお招きし、にこにこ講座『介護アロマセラピスト』に参加頂き、アロマ体験をして頂いたり、ウォークラリー形式をもちいて、楽しく学園祭を過ごしていただいた。学校訓練会では、地域の肢体不自由のある方とその家族を対象に、臨床動作法による援助を中心とした療育活動を行った。

平成26年度に開所した佐賀市まちなか活性化拠点「ぶら〜っと249」（佐賀市サテライト教室）も、学生ボランティア拠点、多世代交流拠点として様々な活動を展開中である。

以上が平成28年度西九州大学の地域連携・貢献活動に関する多様な活動実績の概要である。

## 【西九州大学短期大学部】

本学の地域連携並びに地域貢献活動においては、次のとおり継続的な活動を展開している。

### ～社会貢献活動～

#### (1) 健康福祉・生涯学習センターでの生涯学習活動

西九州大学グループ地域連携センターに属する健康福祉・生涯学習センターは、年齢を問わず地域の方々に、生涯学習の場を提供している。当該センターでは、「エルダーカレッジ」「生きがいきづくり教室」「公開講座」を開設し、年間を通して展開している。エルダーカレッジでは、「学び」と「出会い」をコンセプトに、学びのニーズに応じて本科（2年間）と大学院（本科卒業後更に1年間）を開設し、多彩なジャンルの講座を開講している。「生きがいきづくり教室」では、「ふれあい」をコンセプトに、地域の方々に学生や教員とのレクリエーションや体操などの体験活動を中心とする生きがいきづくりのための講座を開講している。「公開講座」では、前期・後期において、教員の専門を生かして比較的専門的な内容やトピックについて分かりやすく説明する講座を広く公開している。

#### (2) 高大連携活動

高大連携の協定を締結する高校に対し、高校教諭との会合の場を設け、本学教育への意見を聴取し、高大接続における課題の共有を図るほか、高校生への学びの場を設けている。学びの場として、各学科の授業体験や活動への参加を受け入れている。協定を締結していない高校を含め、各高校の要望に応じて職業理解の授業や講座を高校に出向き展開している。平成26年からは、「キャンパスプレビュー」と称し、定期的に通常授業への高校生参加を受け入れている。

#### (3) 西九州大学グループ子ども研究ネットワークの活動

西九州大学グループ地域連携センターに属する西九州大学グループ子ども研究ネットワークでは、子どもに関わる様々なジャンルに対して情報共有の場を設けている。子どもへの関わりや環境について毎年テーマを設け、毎年研修会を実施しており、学内教員はもとより地域の幼稚園・保育園・保護者ほかに広く参加いただいている。

#### (4) 各学科において、地域との交流を含めた学修活動

各学科における地域貢献としては、各学科カリキュラムの学修活動の中でそれぞれ地域交流イベント等を開催している。食物栄養学科では、例年「食育フェスタ」「おせち・クリスマス大会」「デコレーションケーキ大会」を通して、高校生ほか地域の方々に活動の参観や参加いただいている。生活福祉学科では、「遊友広場」や学園祭のイベントを通して、地域作業所の利用者を含めた参加型イベントを展開している。幼児保育学科では「親子いきいき広場」「表現フェスタ」そして、学園祭のイベントを通し、地域の親子の参加交流イベントや表現の学修成果の発表を公開している。

#### (5) 西九州大学・西九州大学短期大学部「出張講義」の開講

教育の人的資源の解放・地域貢献を目的に、各教員の専門分野に関わる講義を無料出張

で提供している。平成 28 年度は全 105 講義、内 29 講義を短期大学部教員が開講し、公民館や学校教育研修会等からの依頼に応じている。

#### (6) 施設・設備の使用

地域貢献として、本学施設・設備を解放しており、平成 28 年度は、約 30 団体・事業所に研修等で、講義室や実習室、器具等の貸出しをするなど、風通しのよいキャンパスづくりを行っている。

この他、定期的に本学所在地周辺での清掃活動を全学で実施している。これらの活動は、随時ホームページに掲載するほか、当該部署にて報告書にてまとめている。

#### ～大学間連携～

大学コンソーシアム佐賀においては、共通科目の提供のほか、連携校と協力し年間を通して発達支援プログラム（コンソーシアム認定の発達支援資格）と卒後講座を開講している。短期大学コンソーシアム九州においては、連携校と協力し、共同教学 IR 事業を展開し、学修成果の公開発表、学生による OB インタビュー活動、教育研究集会等を定期的実施している。いずれのコンソーシアム活動においても共同 F D / S D 活動を実施している。

#### ～産学官連携～

本学の必修科目（共通科目）である「共に学ぶあすなろう（キャリア）Ⅰ・Ⅱ」および「卒業研究」等の各学科目のなかで、企業や地域行政との産学官連携活動を各学科・グループ単位で計画し、体験活動を取り入れた実践的教育活動を継続して実施している。これまで、佐賀県三養基郡みやき町と企業との菓子開発、本学学生によるみやき町公園マップの作成、佐賀県西松浦郡有田町有田焼陶器会社とのレシピ開発、佐賀県杵島郡江北町との町おこし活動（子育て支援、高齢者福祉活動、旬彩カフェ[ノンブルル]開店による空店舗の活用）、佐賀県小城市（中学校）との介護体験講座、ほか介護福祉士向けの卒後講座など、全学的な取り組みを行っている。また、佐賀県立産業技術学院の委託訓練生の受け入れを行い社会人の受け入れを行っている